

和顔愛語

寺報

令和7年3月号



大阪・関西万博の予定地・夢洲（写真奥）では、パビリオンの建造が進んでいる

技術と共に内面の充実も

大阪・関西万博が4月13日にはじまります。今回のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。万博会場では大型のドローンが空飛ぶ車として人を運び、AIが案内をしてくれるそうで、技術革新で私たちの暮らしがますます便利になり、たくさんの可能性が広がる未来を示してくれそうです。

一方、未だ続くロシアとウクライナの戦争ではドローンが人の命を奪い、アメリカではAIの軍事利用が検討されています。暮らしを良くするものが、一方で暮らしを脅かす。これは「いのち」が真に輝く未来社会を実現するためには、技術の発展や物質的な豊かさだけでは不十分なことを示します。技術を発明し、使うのは人であり、物質的な発展と共に人間の精神的な基盤が充実してこそ、いのちは真の輝きを放つのでしよう。

さて、仏教には三宝（佛・法・僧）といふ言葉があります。三宝とは佛（仏さま）・法（その教え）・僧（それを大事にする修行者たち）の三つ。仏さまの智慧の明かりを尊び、教えを正しく実践し、修行者たちが仲良く助け合う姿を見習って生きていくのが、仏教的な生き方です。これらを大切にすることは、「明るく、正しく、仲良く」生きていくことと言えるでしょう。

このような精神を重視しつつ、技術が発展する社会を生きることができ、充実した日々を送ることができます。そして、自分が充実すること誰かのために行動ができ、それは「明るく、正しく、仲良く」の輪を広げることにもつながります。技術を正しく使い、よりよい明日を創っていくのは私たち自身であり、世のため人のためという清らかな心が大事になります。

万博に足を運べば、新技術に驚き、夢ある未来社会に心躍ることでしょう。その社会を実現し、子どもたちや孫たちに受け渡すのは大人の役目。そのためには私たちの内面の充実も大切です。どうぞ「明るく、正しく、仲良く」を大切にして日々をお過ごしください。いのちが自然にキラキラ輝きだし、内面が磨かれていくはずですよ。

生活の中にある

仏教の言葉

⑥

私たちが日常で使う言葉には、仏教に由来する言葉が多くあります。なかには、仏教ではまったく意味が異なるものも。この「コーナー」では、そんな言葉を紹介していきます。

有頂天

——。仕事が順調、試験に受かったときは、「有頂天」になって気が緩んでしまいがち。この「有頂天」という言葉、仏教語で「数ある天（界）の中でも最高の天」を意味します。

仏教の世界観では、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六つの迷いの世界（六道）があり、全ての生き物はその中で生まれては死ぬことを繰り返している（輪廻）とされます。



このうち、天は一番上位の世界ですが、有頂天はその中でも最も高い境界にあたり、六道の真の頂点と言えます。ふだん使われている意味は、その「有頂天」に到達したことで、

喜びの絶頂にいることに由来します。

現在の「生」を終えた後、次にどの世界に生まれるかは、今の人生での行いで決まるとされます。「有頂天」もまた輪廻世界の一つ、次の世では一番低い地獄に生まれてしまうかもしれませぬ。

同様に、どんな幸せの中にも、思わぬ落とし穴があるもの。幸せに浸るのもいいですが、先のこともしちんと見すえて、自重する心を持つことが大切、ということです。

迷惑

「人に迷惑をかけてはいけません」

小さいころには誰もがいわれたことがあるでしょう。とはいえ、生きていけば意図せずとも迷惑をかけてしまうこともあります。

この「迷惑」、仏教語としては「仏教の教えや物事の道理を理解できずに迷い、戸惑う」という意味。このなか「迷い、戸惑う」の部分を取り上げられ、現在一般に使われている意味になったとされます。

この「迷惑」は、貪りや怒り、愚かさなど、道理に反したことに執着していることをいいます。仏教では、このような執着の心が苦しみを生み出すとして、それから離れた「さとり」を目指します。

インドには、「自分も迷惑をかけるのだから、他人のことも許してあげなさい」という格言があります。

自分が迷惑を受けたことは、他人にかけたことに比べ心に残ることが多いもの。しかし、それに執着し続けてしまえばむしろ自分自身が苦しんでしまいます。ですから、相手を許すことよって、「迷惑（迷い・戸惑い）」に陥らないようにしたいものです。

伝えたい三言葉 (18)

至というは真なり、

誠というは実なり

〈現代語訳〉

「至誠心の」「至」というのは「真」であり、「誠」というのは「実」である。

浄土宗では「三心」という三つの心を大切にします。この三つの心をもつて念仏を唱えると、阿弥陀様の極楽浄土に往生することが出来ます。この三心は『観無量寿経』というお経に説かれるもので、「至誠心」「深心」「廻向発願心」の三つの心のことです。今回は三心のうち「至誠心」を紹介します。

至誠心とは真実の心を意味します。法然上人は善導大師の『観経疏』という書物を読んで、浄土宗を開くことになりました。

した。この書物は『観無量寿経』を解説するもので、そのなかで三心への言及もあります。善導大師は至誠心について「至というは真なり、誠というは実なり」と述べています。これは「至誠心」が「真実心」であるということです。それでは真実心とはどのような心でしょうか。

真実心は真心であり、また誠実な心です。その反対が偽りの心。これを虚仮心と呼びます。虚仮とは嘘偽りのことで、外面と内面が一致しない、あべこべな心ともいえます。

落語の演目に『転失気』というものがあります。このお話は転失気、すなわちオナラを題材

にした小話です。病気になった住職がお医者さんの診察を受け「転失気はありますか？」と聞かれます。住職はそれが何かわからない。しかし、わからないというのが恥ずかしく、知ったかぶりをして「ありません」と答えました。落語はこの転失気をめぐって面白おかしいことが起きますが、それは実際に聞いてみてほしいと思います。

この住職のように知らないのを知っていると云ってしまう、また相手に気に入られようと心にもないようなことを言ってしまうといった自分の内面と行動があべこべになっているときの心、虚仮心というのです。

あべこべな心のままお念仏をしても往生はできません。自分の至らなさを自覚し、そんな自分をも見捨てない阿弥陀様を信じて、「助けてください阿弥陀様」と誠実な真心でお念仏を唱えることで来世の往生浄土が約束されます。自分自身が至らない存在であると自覚する内面と、助けてほしいと思ってお念仏を唱える外面や行動が一致していることが重要であり、その時の心を至誠心といいます。

法然上人も善導大師も、きつと阿弥陀さまの前ではえらぶらず、また必要以上にかしまることもなく、ただ真心もつて、ありのままの自分で向き合うことが大切だと考えたのでしよう。その真心をもつてお念仏を唱えるとき、それが阿弥陀さまやご先祖様に届き、極楽とのご縁がしっかりと結ばれるのです。みなさんも真心を大切にしてみてください。



善導大師は法然上人が師と仰ぐ中国・唐時代の高僧。法然上人の夢に現れたときに半身が金色だったとの伝承が残る。龍谷大学図書館所蔵 [善導大師(半金色)像] - 善導大師並に法然上人関係図版集 -

Q&Aですぐわかる! なるほど浄土宗

19

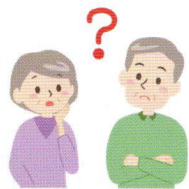
身近な仏教の疑問をQ & A
形式で説明します!



——お坊さんがお経を読むときに叩く物は何?

——僧侶は読経どきようの時に様々な鳴り物を用います。その中でも「ボクボク」となる木魚こぎょが代表的なものでしょう。

木魚の起源は中国で使われた魚版ばんという魚の形をした板です。魚は眼を閉じることがないので、それに倣い、「常に目覚めて精進せよ」と戒めるいましめために、その形を模した板を作って、朝起きる時間や



食事の時などに打ち鳴らしていいました。それが徐々に今の形になり、江戸時代

にいんげんぜんじ隠元禪師という禅僧が日本に持ち込み、読経などに使われるようになりました。

木魚は読経だけでなくお念仏を唱えるときにも用います。とくに大勢で唱えるときには、リズムをとって全員の声を合わせる役割を果たします。

浄土宗では、「裏打ち（合間打ち）」と呼ばれる木魚のたたき方をよく用います。発声と同時に木魚を打つのではなく、お念仏であれば、「ナー」○「ムア」○「ミダ」○「ブ」といったように、声と声のあいだに木魚を打ちます。木魚を打ちながらお念仏をするときは、木魚の由来を思い出し、心を込めてお唱えください。

住職あいさつ

先日、傾聴の研修に参加しました。傾聴とは相手の状況や感情に共感し理解して受け止めるためのコミュニケーション技法のことです。研修では、人を無条件に尊敬し、信頼し、受け入れることの大切さを学びました。

日常生活の中では、他人を批判してしまったり、尊敬や信頼ができないこともあります。しかし、一度立ち止まり、相手の立場に立って考えを理解しようとするれば、その行動の背景が見えてくることもあります。こうした姿勢が関係を円滑にし、相互理解を深めることにつながるのではないのでしょうか。もちろん簡単なことではありませんが、少しずつでも思いやりの心を持つことで、より平和な世界へ近づけることでしょう。

そんな私たちを見守る仏様やご先祖様へ感謝を込め、今年もぜひお彼岸にお参りください。

私たちの宗旨

名称：浄土宗
宗祖：法然上人（1133-1212）
開宗：承安5年（1175）
本尊：阿弥陀如来
教え：阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ「南無阿弥陀仏」とみ名を称えて、お浄土に生まれることを願う信仰です。

普照山 正定寺

■所在地
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

紫金山 静蓮寺

■所在地
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

母冲山 清見寺

■所在地
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122